

第9回大阪府立金岡高等学校アスベスト飛散事故に関する協議会検討項目の整理

検討項目	内容
1. 屋外軒天ボード撤去作業中のアスベスト飛散濃度	<p>以下のどの数値を採用するか？</p> <p>①計測された数値の平均値 【9.4f/L^{★1} ・ 1428f/L^{★2}】</p> <p>②計測された数値の平均値の6倍※【57f/L^{★1} ・ 8568f/L^{★2}】</p> <p>③計測された数値の最大値 【20f/L^{★1} ・ 2400f/L^{★2}】</p> <p>④計測された数値の最大値の6倍※【120f/L^{★1} ・ 14400f/L^{★2}】</p> <p>※別紙イメージ図参照</p> <p>★1：7月23日アスベスト飛散量計測実験（廊下側庇）データ</p> <p>★2：7月24日アスベスト飛散量計測実験（教室側庇）データ</p>
2. 作業箇所によるアスベスト飛散濃度の違い	<p>作業箇所によるアスベスト濃度の違いを考慮するか？</p> <p>①一律に最大2400f/L計測された施工箇所のデータで評価</p> <p>②施工箇所の条件によって、場合分けして評価 （最大2400f/Lの箇所と最大20f/Lの箇所を区別して評価）</p>
3. 屋内での曝露箇所によるアスベスト曝露濃度の違い	<p>①継続的に曝露し得る空間を想定し評価（教室内継続曝露）</p> <p>②作業の直近に居続けたと仮定し評価（作業直近曝露）</p> <p>③教室内継続曝露5：作業直近曝露1で評価</p>
4. アスベスト曝露量の算定	<ul style="list-style-type: none"> 作業工程毎に、1.の濃度のブルーシート内アスベストが全量1回屋外に飛散したものとする 工事のあった日の工程毎に評価 上記の1.～3.までの条件をもとに屋外軒天ボード撤去作業期間中の最大アスベスト曝露量を算定
5. 軒天施工時のアンカー打設	当時の状況を再検証し判断
6-1. 過小評価項目 ・シミュレーション作業は比較的丁寧に行われた	実験時のビデオ映像及び写真等から判断
6-2. 過小評価項目 ・清掃等曝露評価が検証されていない作業の存在	過小評価が懸念される不確かな曝露要因については、合理的な検証が不可能なことから、曝露量の評価値を算出した諸条件と併せて、報告書にその内容を記載する。